

## 編集後記 この秋、アゲアゲが止まらない

皆さんは、「秋の味覚」といえば何を思い浮かべますか？

栗、梨、ぶどう、さつまいも、松茸、それに何といってもサンマ！

ところが、これから旬のサンマは水揚げ量が大きく落ち込むことが予想されていて、値上がりが必要とのこと。

「小さい秋みつけた」という童謡がありますが、この秋は「小さいサンマみつけた」になっちゃいそう。(\*\_\*)

でも、この秋の値上げはそれだけではありません。

鳥貴族、ガスト、マールポロ(タバコ)、iPad Pro、そしてクロネコヤマトの宅急便…etc.

値段はアゲアゲですが、まったくテンションはサゲサゲです。(-\_-;)



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



さて、敬老の日(18日)を前に総務省が人口推計を発表しました。9月15日時点で、**90歳以上の人口**が1年前より14万人増えて206万人となり、初めて**200万人を突破**したとのことです。

さらに、総人口に占める**65歳以上の割合は27.7%**と過去最高を更新しています。

長寿はめでたいことですが、高齢化にともなう国が負担する年金や医療費の増加は、とってとても大きな国家的課題です。止まらないわが国の高齢化と人口減少からは、労働力の減少ひいては経済の縮小という、決して明るいとはいえないわが国の未来予想図が透けて見えます。



そしてもう一つ、この秋のアゲアゲといえば、今回のニュースレターでも案内させていただいている、**最低賃金**。**最低賃金の引き上げ**は、非正規労働者の処遇改善を目的とするとともに、低迷する日本経済のもとで内需を拡大し、景気を回復するうえで必要不可欠な経済政策とされています。

しかしながら、じわじわと上がっている最低賃金には別の目的もあるように思います。

最低賃金が上がるとパート女性従業員は扶養の範囲に年収を制限する為に、労働時間を短くしようとします。でも、毎年上がっていく最低賃金にあわせて仕事を減らしていくことは現実的ではありません。

結局のところ、扶養の範囲を超えてもいいから働きたいという人も増えているのではないのでしょうか。

最低賃金を上げていく施策には、扶養配偶者の優遇制度、つまり年金を納付することなく年金が支給される仕組みの**国民年金第三号被保険者制度**を縮小し、働く主婦を増やしていくことで減りゆく労働力人口を補いながら、且つ年金の財源を拡大する・・・な一丁で国の目論見もあるように思います。

厚生労働省は、「配偶者手当の在り方について」というチラシを作り、多くの企業で配偶者に対して支給されている「家族手当」についてその在り方を考え直しませんか？と賃金制度の改定を提案しています。つまり、**家族手当を支給することが、女性のパート従業員の就業調整の要因となっている**と指摘しているのです。

アベノミクス3本目の矢「成長戦略」の中では、女性の社会進出を重要課題の一つに挙げていますが、その「**女性が輝く日本**」という明るいキャッチコピーの裏側には、未来の日本を見据えてなんとか働く主婦を増やしたいという苦しい台所事情があります。とはいえ、僕も「できる」女性は、いっぱいいらっしやると思っています。

そんな女性には国の施策どうこうではなく、アゲアゲで活躍してほしいですね。(^o^)

「未来」は自分たち次第で変えられます。

秋の味覚といえば思い出すことがあるんです。それは、我が家の子どもが小学生の頃、お父さんのことを紹介する宿題の作文に、「お父さんは栗ご飯大好き。

一杯目は栗だけ残してご飯をお代わりする。」って書いたことがあります。

その通りなんです。何しろ栗を残してお代わりすると2杯目の栗ご飯は栗が2倍になりますからね。

秋、僕のテンションがアゲアゲになる、スプーン一杯ならぬ「お茶碗一杯の幸せ」なのです。^\_^;

